

## 教育動画の問題点と今後の的確な再発防止策等の改善に向けた遺族の思い

息子の自死事案における再発防止策の一環として県教委が制作した教育動画を視聴したところ、遺族意見の約7割は生かされておらず、「教師側の問題を生徒側へ責任転嫁」「教師からのパワハラ等指導に「気づく」重要性の説明がない」等、特に核心の部分は反映されていない内容であるため、大変遺憾であるとともに、息子の命が粗末に扱われているようで強い怒りを覚えます。既に初回の生徒視聴がほぼ終わっている状況であり、一度決めた方針を柔軟に見直すことのなかった第三者調査委員会設置前と同様の経過です。令和6年度末の完成としていたにも関わらず動画制作業務の発注が大幅に遅かったため、動画制作業者の作業期間が十分確保されておらず、県教委が未確認の動画シナリオを遺族に確認依頼を丸投げするなど、内容よりも期限までの完成が動画制作の目的になっていたと感じています。『導入・教職員用』では、「こども基本法」や「こども大綱」などを読み込めないスピードで示しているに過ぎず、体罰に該当すると考えられる事例なども、文科省のガイドラインを引き写しただけで、10年前のまま目新しさもありません。生徒が教師からのパワハラ等指導を教育動画で継続的に学習する全国的にも類を見ない、この取り組みは13年前息子が亡くなった直後から亡き妻と共に悲願としてきましたが、遺族意見の反映が不十分な上、その場しのぎの「やっつけ仕事」で処理された、問題点の多い教育動画と言わざるを得ません。

『導入・生徒用』の「自身や周りの人を守るためにどのように行動したらよいか」、『事例動画』の「被害者や周りの部員たちは、どのタイミングで、誰にSOSを出すことができたでしょうか」のアナウンスは、1月15日に公表された再発防止策における教育動画構成と異なる上、『まとめ・生徒用』の「学校から体罰や不適切な指導、ハラスメントを無くしていくために、みなさんも家族や友だちと話してみませんか」のアナウンスは、教師側の責務からのすり替えであるため何度も是正を求めましたが、修正されていません。また、「特別な支援を必要とする児童生徒」に対しても同様にアナウンスされていますが、特別な支援が必要な生徒にまで、そのような援助希求行動の自己責任を県教委は課すのかと、啞然としています。教師側の指導が問題なのに、まるで生徒や家庭に問題があるかのような言い方で、教師側の問題を改善することが生徒側の責務であるかのような言い分です。そうであれば、「教師側で問題が改善できなかつたら、その責任は生徒側が負うべきだ」と言っているのと同義だと考えられます。パワハラ等指導を行う教師が出現しないよう、そして放置されないよう、学校や県教委が責任を持つという自覚が完全に欠如している言い方だと感じています。

息子は野球部監督からパワハラ等指導を受け、落ち度のない自分を責めて自らの命を絶ったのです。監督のパワハラ等指導に「気づく」ことさえできていれば、息子は自死することはなかったのです。本教育動画は教師のパワハラ等指導に「気づく」ことの重要性に関する説明が一切ないため、とても息子の事件の再発防止策として受け入れることはできません。

さらに、『まとめ・教職員用』では、「教職員は違法行為や全体の奉仕者としてふさわしくない非行などを行った場合、停職、減給、又は戒告、重大な悪質性がある場合は免職などの懲戒処分が課されます」とアナウンスされていますが、「懲戒処分が課されることになるからやるな」だけではなく、「児童・生徒の心身に大きな深い傷を残し、命を奪うことまでもある行為だから、絶対にダメだ」という肝心要の部分がすっぽりと抜け落ちています。

県教委は適切な再発防止策の策定、策定後の評価・検証のため、公正・中立な外部有識者4名を選任しており、本教育動画の制作過程においても外部有識者への意見聴取を求めましたが、制作完了まで実施されることはありませんでした。動画制作会社が雇った大学教授2名の監修を受け制作されていますが、公正性や中立性が確保されているとは言えず、制作過程において根本的な問題があったことは明白です。

このような制作期間の制約や公正・中立性の問題がある環境で制作された本教育動画は、生徒が初めて学習する教師のパワハラ等指導への「気づき」が確実に出来るようになるためではなく、次のステップの援助希求行動へ焦点をいきなりあわせた構成となっており、パワハラ等指導からの援助希求行動は生徒側の責任であると間違った理解をさせてしまう危険性を強く感じます。直ちに外部有識者に評価・検証を受け、正常化された教育動画を生徒に再視聴いただくべきであり、待ったなしの状況です。調査報告書の公表から既に4年が経過しましたが、県教委は教師が生徒を死に追いやった責任を未だに受け入れようとはしておらず、生徒用動画には県教委のその保身的姿勢が強く表れていると感じています。

令和3年3月の第三者委員会調査報告書の公表後、令和3年9月には、令和3年度末までに再発防止策を策定したいとの県教委の意向を伺っていましたが、実際には令和7年1月までと策定完了(教育動画以外)が実に2年10カ月遅延しています。県教委からは「事務処理の遅れやご遺族との調整、外部有識者・ご遺族からのご意見の集約及び反映作業、教育庁全体の調整などさまざまな理由」で2年3ヶ月、「外部有識者について関係団体からの推薦や選定」で7ヶ月遅延したと伺っておりますが、令和7年2月27日の2月議会代表質問(民主・県民クラブ:高原議員)に対して、教育長は「事務処理の遅れ等さまざまな理由」ではなく、「外部有識者について関係団体からの推薦や選定に時間を要したことなど」が遅延理由であると答弁しており、県教委の意図的な隠蔽行為が再発している事例の1つだと考えています。

今回公表される教育動画を含めた再発防止策の評価・検証が今後なされる予定ですが、保身的姿勢や隠蔽体質が改善されないまま、閉鎖性が高い県教委に的確な改善は困難であると感じています。息子の死を無駄にしないため、県教委へ出来る限りの働きかけを継続していく所存ではありますが、息子が亡くなった13年前と同様、県教委からは遺族の声へ真摯に耳を傾ける姿勢は感じられず、調査報告書の提言に対するアリバイ作りのためととれる評価・検証結果の説明や意見聴取が書面上でのみ形式的になされる予定であり、絶望と不安しかありません。また、4名の外部有識者への評価・検証結果の説明や意見聴取は非公開で個別に県教委が実施する予定であり、こちらも不安が募ります。なお、いくら的確で有用な意見であっても、その反映は県教委が判断するため、極めて恣意的な改善しか望めないのが現状です。遺族の心情に寄り添った対応をいただけない県教委との遺族単独による対峙は困難を極めており、今後は県民や全国の有識者の皆様に教育動画の問題点を共有いただくとともに、県教委HPや報道されている再発防止策の評価・検証過程を注視いただき、教育動画を含む的確な再発防止策の改善や県教委の体質改善に向けた働きかけや救済を是非ともお願いしたいと考えています。